

【富山税務署長賞】

「税金で暮らしを良いものに」

富山県立富山高等学校一年 伊東 啓佑

旅行に行ったとき、弟が少ないお小遣いでお土産を買おうとしたが、わずかにお金が足りなくて困っていた。よく見ると、税抜きでは買うことができたが、税込みでは買うことができなかった。親に残りのお金をもらって買うことができたが、税金って高いなと思った。また、小さな子供なのに、どうして払わないといけないのだろうかと考えた。そこで、弟に分かるように、説明してみようと思う。

弟が生まれたのは、市民病院だ。市民病院は市が税金で建てたものだ。医師や看護師の人員費など、税金が利用されている。僕もそうだが、弟もよく市の運営する育児サロンに遊びに行ったそう。おもちゃなどで遊んでいたらしい。市営の幼稚園にも通った。弟はそこでたくさん友達をつくって遊んだ。今通っている小学校も市がお金を出している。

弟が喜んでいくのは、水族館。この水族館も、市の水族館だ。毎年、多くの税金が投入されて維持されていると聞いている。僕も弟も、この水族館のイベントによく参加し、たくさん経験をしている。弟の払った税金も少しは水族館のために使われているのだろう。

弟がもし、大きなけがをしたら、救急車を呼ぶことがあるかも知れない。交通事故に遭ったり、犯罪に巻き込まれたりすると、警察に相談することもあるだろう。そういえば、最近、不審者の目撃があった。そんな時、朝からパトカーが登校中に巡回してくれているそう。安心して暮らせるのも、税金を払っているからだろう。

何年前か前、大雪が降って道路に雪が積もって家から出られなくなったことがあった。車が車庫から出られないと言って、母は近くのコンビニに歩いて食料を買い出しに行った。弟は、雪が積もって喜んでいただけ、両親は困っていた。そんな時に、家の前の道をブルドーザーが通っていった。僕の家の人がお金を払ったわけでは無いが、きれいに除雪してくれたおかげで、買い物に行けるようになった。

そして、最後に、僕の両親は公務員だ。よく両親は、ごはんを食べられるのは、税金のおかげだと言う。誰かのために働いて、税金でお給料をもらっているそう。僕たち家族は、税金のお世話になっているのだ。

こんな説明で、弟は納得してくれるだろうか。自分たちの生活は、税金のおかげで安心して、幸せに暮らすことができるんだと。

でも、正直なところ、僕も税金を払いたくないと思うときがある。税金の無駄遣いということニュースで聞くことがあるからだ。無駄遣いせず、困っている人や本当に必要なところにお金を使って欲しい。節税できるところは、努力してほしい。

弟は、納得してくれた。僕も幸せな生活ができるように、税金を払っていこうと思う。